

全ての争議を解決し
安全・安心の航空へ

航空連ニュース

航空労組連絡会
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル
Tel 03-3742-3251
Fax 03-5737-7819
No.996 (35-17) 2020年12月15日

解雇予告通知を受けて丸10年 12・9 厚労省で記者会見



解雇予告通知を受けて丸10年となる12月9日、国民共闘と争議団は厚労省にて記者会見を行ない、ジェンダー平等と航空安全の観点からも争議の早期解決が重要であることを訴えました。

12社、14名の記者が出席し、主催者側からは、中岡国民共闘共同代表(全労協事務局長)とともに、争議団から8名が参加しました。

冒頭、中岡共同代表が、「コロナ禍で厳しい状況。安全なJALを取り戻せるか重要な時期である。ジェンダー平等の視点からも解決の議論は必要になる」と発言。内田客乗団長からは、「争議の経緯と現状」と「ジェンダー平等を実現してきた組合の運動」、山口乗員団長からは、「JALの主な事故と乗員組合の歩み」を中心に説明があり、その後、活潑な質疑応答がありました。最後に当該原告2人から、この10年を振り返り、今の思いが話されました。

当日は、国交省前宣伝と新橋SL前広場での宣伝行動も行い、一日行動を展開しました。

**「ジェンダー平等」と「空の安全」の実現！
そのために闘ってきた人をターゲットにした解雇は許されない！**

内田客乗団長の発言

以前は30才定年、結婚すると退職という男女差別雇用だった。是正させるために労働組合と共に要求を掲げ実現させてきた者が解雇のターゲットになった。活動を担ってきた点から2つの組合があり、会社は私たちの組合に対して差別政策を取ってきました。

解雇された者は、1970年代から日本の客室乗務員の先頭となって、ジェンダー平等の実現を実践してきた。非正規化の流れの中においても、非正規化に反対し20年以上闘って、2016年に正社員化を実現した。「権利獲得」「差別をさせない雇用形態」を求めて闘った客室乗務員がなぜ解雇の対象とされたのか。物を言う女性たちが封じ込められたことは明白である。

山口乗員団長の発言

これは整理解雇でなく指名解雇である。パイロットは81名を解雇して386名採用、客室乗務員は84名解雇して6205名採用している。絶対に許されることではない。JALは私が入社してから事故で731名の犠牲者を出している。安全運航確保のために声を出していかないとJALには先がないと真剣に思い頑張ってきた。

JALでは1965年11月に指名ストライキを行い、4人の乗員が解雇された。解決したのは、連続事故が契機だった。物を言うから切る、これが航空会社にとってどうなのか。731名の犠牲者を出している会社のやることではない。

国も責任がある。今、国会でも超党派の議員が動いている。JALの政策を改めさせたい。

争議団から今の思い

一言では言い尽くせない10年である。先輩方が勝ち取ってきて下さった結婚退職制度撤廃、年齢による退職制度撤廃を受けて、子育てしながら2010年まで乗務することができた。2010年の段階で子どもを育てながら働き、定年退職を迎えた方はほとんどいない。なぜ女性が活躍する職場なのに、子育てしながら定年を迎えられないのかと、その一心でこの10年やってきた。定年という形で退職を迎えなかった。

子どもを持ち、家庭生活も犠牲にしながら33年間仕事一筋でやってきた。JALに貢献してきたと思っているが、解雇される時にこれから貢献度が無いと言われショックを受けた。それまでの33年間を全て否定された。客室乗務員の希望退職者の目標は570名であったが、会社は休職者は何人辞めてもゼロ人とカウントした。それでも目標達成しそうになると、90名も目標を上積みした。なぜそこまでしたのか。ジェンダー平等を求めて闘ってきた組合を弱体化するためのターゲットにした。そのことが許せない。10年間、24時間365日争議の解決のことしか考えていない。

記者からは、「ILO勧告に対して、厚労省の果たすべき役割をどう考えるか」、「争議団にとって最終的な解決策とは何か」、「年内解決の根拠は何か」、「ジェンダー平等だけでなく、空の安全を訴えてきて解雇されたことも含め思いを聞きたい」等の質問が出されました。



新聞記事でも報道



広島の方々の連帯に感謝！

12月3日には広島でも「はたらくもののくらしと権利を守る 2020年争議支援総行動」が行われました。宣伝カーのアナウンスやデモでJAL争議のことを取り上げ、「日本航空はベテラン乗務員を職場に戻せ」のシュプレヒコールも行われました。遠く離れていても、多くの仲間の連帯に争議団は勇気づけられています。